

至学館大学

一般入試(後期)

国語 出題意図

第1問 *評論文の読解能力を問う。(伊藤亜紗『「利他」とは何か』)

問1 漢字問題。文脈にあてはまる適切な語を思いつき、該当する漢字を選択させて、総合的な語彙力を試している。

問2、問8 語句の問題。「自己肯定感」「情は人のためならず」の意味を選択させて、語彙力を試している。

問3～問7 傍線部分の説明として最も適当なものを選択させる問題。本文全体からヒントを集め、紛らわしい選択肢を消去する必要がある、総合的な読解力を試している。

問9 複数の文章を関連させながら解答させる問題。〔文章Ⅰ〕における筆者の主張を正しく理解して、〔文章Ⅱ〕と関連づける必要がある、総合的な思考力・読解力をはかる問題である。

問10 趣旨問題。〔文章Ⅰ〕〔文章Ⅱ〕の論旨を正しく把握して、それを「人間以外の生物や自然」の場合に応用しなければならない。加えて、選択肢が5人の学生の意見というかたちで作られており、最も適当な選択肢を選ぶには幅広い思考力・応用力が必要である。

第2問 *随想文の読解能力を問う。(寺山修司『書を捨てよ、街へ出よう』)問1・2及び問5～問9の傍線部分の説明として最も適当なものを選択する問題。問9の傍線部には「クレジット」という語句が含まれているが、ここでは「信用」という意味ではなく、傍線直後の「巨人軍の看板男」という表現から「題目」「名前」といった意味であることを読み取る必要がある。

問3 語句の意味を問う。(a)の「座右の書」は「常に身近な場所に置いている本」という意味で、自分にとって大切なパートナーとなっている本のことである。選択肢③の「最も大切に扱っている書物」は、「大切」の意味が「座右の書」という語句の持つ意味とは少しずれている。

問4 漢字力を試す問題。(ア)の「君臨」の正答率が低かったが、これは「臨」という漢字の訓への理解が整備されていないことを示している。「臨(のぞ)む」は「何かに向かう」「目の前にする」の意味である。